

小林信明著「漢文研究法」洛陽社 1957年4月10日刊を読む

十八史略 - 明道先生の墓表の序 - を読む

### 通釈

1. 周公が死んでしまってから、堯舜以来の聖人のやり方というものは行なわれなくなってしまい、孟子が死んでしまっからは、聖人の教えというものも伝える人がなくなってしまった。
2. 道が行なわれないということになれば、いつまで経ってもりっぱな政治が敷かれる見込みはないし、教えが伝わらなければ、いつの世になってもりっぱな学者が出る見込みはない。
3. が、よしんばりっぱな政治は敷かれなくても、心ある人はまだ、どうしたらりっぱな政治が行なえるかを研究して、それで人々をりっぱにし、また、それを後の世まで伝えることができる。
4. けれども、りっぱな学者が居なかったら、世の中の人々は全く目が見えなくて、どうしたらよいか一向にわからず、勝手なことばかりして正しい道理は滅んでしまう。
5. 明道先生は、孟子の没後 1400年もしてからこの世に生まれ、孟子以来伝わらないで途絶えていた聖人の教えを、幸いにして世に残されて来た経典の中に見つけ、これによって聖人の教えにそむいているのは何かを明らかに区別し、間違った主張を止めさせて、堯舜以来の聖人のやり方が、再びこの世にはっきりと認められるようにした。
6. 思うにこのような功績を立てた人というものは、孟子以後においては、我が明道先生を除いては外にない。

### [コメント]

大学入試の受験生のための漢文の参考書の最高峰である小林信明先生の「漢文研究法」の最後の例文。小林先生が何のために漢文教育を志したか、これほどよくわかる文章はない。

- 2009年4月21日林明夫記 -